

文法で意味を読む

第一冊 文の骨組みとつながりを読む

言葉のつながりをたどり、文脈へ戻り、伝わる文へ整える

第一回	第二回	第三回	第四回
修飾語と 文の組み立て	助詞「に・と」と 人の関わり	「は・が」と 話題・主語	省略された主語と 行為者の切り替わり

この冊で育てる力

一文の中で、どの言葉がどこにつながり、誰がどの動作に関わるのかを確かめます。文の形だけで決まることと、前後の文脈から補うことを分け、最後は誤解の少ない文へ書き直します。

名前

使い始めた日

和会塾

この教材について

文法は、意味を確かめるための道具

この教材では、品詞名や規則を先に暗記するのではなく、似た文の違い、迷う読み、少し不自然な読みから始めます。考えたあとで文法用語を知り、文章の中で読みを確かめ、自分の文を整えます。

一回の学び方

1	比べる	一部だけが違う文を読み、意味の差に気づく。
2	ほどく	述語、助詞、修飾先、主語を線や図で確かめる。
3	整理する	考えた内容へ、必要な文法用語を結び付ける。
4	本文へ戻る	文だけで決まらないことを、前後の根拠から選ぶ。
5	書き直す	意図した関係が一つに伝わる文へ整える。

自習するときの三つの約束

一	二	三
すぐに一つへ決めず、文の形から作れる 読みを確かめる。	本文が述べていない感情・合意・ 上下関係を足さない。	模範解答の語句ではなく、 必要な要素で自己採点する。

目安：各回の問題 四十～五十五分／答え合わせ 十五～二十分。途中で区切って取り組んでもかまいません。

第一冊の見取り図

短い一文のつながりから始め、助詞、話題と主語、複数文の省略へ進みます。後の回でも前の回の見方を使うため、順に取り組むと学びがつながります。

回	中心となる問い	見るところ	できるようになること
第一回	ことばは、どこにつながる？	修飾先・語順	言葉がどの動作や名詞を詳しくするかを追う。
第二回	「に」と「と」で、関わりはどう見える？	助詞・述語	相手と動作の関係を読み、文が述べる範囲を守る。
第三回	「は」と「が」で、何が前に出る？	話題・主語・対比	問いへの答えと、話を続ける対象を分ける。
第四回	書かれていない主語は、だれ？	省略・文脈	述語、持ち物、会話、出来事の順序から行為者確かめる。

分冊総合問題

地域の古い案内板を調べる一つの記録を読み、修飾先、「に・と」、「は・が」、省略された主語を組み合わせます。最後は、場面メモから人物の役割を読み、曖昧な段落を書き直します。

第一冊を終えたときの目標

一	二	三
一文から、述語と人物・修飾語のつながりを見つけられる。	文だけで言えることと、文脈から補うことを分けられる。	主語・助詞・語順を選び、役割が伝わる文へ整えられる。

目次

区分	内容	頁
前付	この教材について	2
前付	第一冊の見取り図	3
第一回	ことばは、どこにつながる？―修飾語と文の組み立て	5
解答・解説	第一回	16
第二回	「に」と「と」で、関わりはどう見える？―助詞と文の意味	22
解答・解説	第二回	34
第三回	「は」と「が」で、何が前に出る？―話題・主語・対比	40
解答・解説	第三回	51
第四回	書かれていない主語は、だれ？―主語の省略と切り替わり	56
解答・解説	第四回	67
総合問題	古い案内板の言葉をたどる	73
解答・解説	第一冊 総合問題	80
奥付	書誌・利用について	84

使い方

一回ずつ取り組む場合は、各回の問題編のあとに同じ回の解答・解説があります。四回を終えたら、総合問題で複数の見方を一つの文章へ使ってみましょう。

ことばは、どこにつながる？

――修飾語と文の組み立て

第一冊 第一回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	文のつながりを見る	文法で整理する	文章で確かめる	自分の文を整える

この回で大切にすること

一文の中で、時間や場所を示す言葉が二つの動作へつなぐと、読みが分かれることがあります。修飾先と省略された主語を確かめ、文脈へ戻り、分かりやすい文へ整えてみましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

次の二文では、「昨日」がどの動作につながっているでしょう。文法用語を使う前に、意味の違いを比べます。

A 私は昨日借りた本を、今日読んだ。

B 私は借りた本を、昨日読んだ。

問一 A・B それぞれで、「昨日」とつながる動作を線で結びなさい。

問二 A と B の意味の違いを、二十字以上四十字以内に説明しなさい。

C 私は昨日借りた本を読んだ。

読点も、「今日」という手がかり也没有。

問三 C の「昨日」は、「借りた」と「読んだ」のどちらにつながりますか。一つに決められるかどうかも含め、書きなさい。

二 この文をほどいてみよう

文を短いまとまりに区切り、時間・場所・人を表す言葉が、どの動作や名詞につながるかを確かめます。

私は | 昨日 | 図書館で | 借りた | 友達の | 本を | 読んだ。

問一 動きを表す二つの言葉を丸で囲み、「昨日」「図書館で」から、つながると考えた動作へ矢印を引きなさい。

問二 次の二つの読み方について、表の空欄を埋めなさい。

読み	「昨日」の修飾先	図書館で借りたもの	読んだ人
A	昨日 → 借りた	()	私
B	昨日 → 読んだ	()	私

問三 「図書館で借りた」が「友達」を詳しくするまとまりだと読むと、何を図書館で借りたことになりますか。

問四 問三の読みが文の形から生まれる理由と、ふつうの場面では不自然な理由を、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

笑いだけで終わらせない

現実には考えにくい読みでも、どのまとまりがどこへつながったために生まれたかを説明すると、修飾の仕組みが見えてきます。

三 文法で整理しよう

ここまで意味から考えてきたことは、学校文法では次のように整理できます。用語は、つながりを説明するための道具として使います。

用語	意味	この回の例
文節	意味や音のまとまりで区切った、文の小さな単位。	私は 昨日 本を 読んだ
修飾語	ほかの言葉・文節の内容を詳しくする言葉。	昨日 → 借りた / 読んだ
被修飾語	修飾語によって詳しくされる言葉・文節。	青い → 鳥が
語順	文の中で言葉を並べる順序。	位置により修飾先が変わりやすい

覚えておきたい三つのこと

一	二	三
近い言葉につながることは多いが、いつも一番近い言葉だけとは限らない。	書かれていない主語は、文の形だけで一つに決まらないことがある。	文脈と現実の知識は、自然な読みを選ぶ手がかりになる。

大切な区別

「文の形から作れる読み」と「その場面で自然に選ばれる読み」は同じではありません。形を確かめたあと、前後の文へ戻ります。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の文で、修飾する言葉・まとまりから、つながる先へ矢印を引きなさい。

(一)	兄は 大きな 声で 歌った。
(二)	小さな 鳥を 抱いた 係員が 笑った。

問二 次の A・B の違いとして最も適切なものを、ア～エから一つ選びなさい。

A	私は、静かに資料を読む班長を見た。
B	私は、資料を読む班長を静かに見た。
ア	A では班長、B では私が静かに行動している。
イ	A では私、B では班長が静かに行動している。
ウ	A も B も、班長が静かに資料を読んでいる。
エ	A も B も、私が静かに班長を見ている。

意味の違いを確かめよう 続き

昨日撮った案内役の写真を、私は資料に入れた。

問三 上の文から考えられる二つの意味を、それぞれ短く書きなさい。

問四 「案内役が昨日写真を撮り、私がその写真を資料に入れた」という意味が最も伝わりやすい文を選びなさい。

ア	昨日撮った案内役の写真を、私は資料に入れた。
イ	案内役の写真を、私は昨日資料に入れた。
ウ	案内役が昨日撮った写真を、私は資料に入れた。
エ	私が昨日撮った案内役の写真を、資料に入れた。

判断の手がかり

一 動作を探す 二 各動作の主語を考える 三 時間や場所の修飾先を確かめる。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。下線部は、一文だけを見ると複数の読みが考えられます。

一 金曜日、真帆の姉は科学部の展示に使うため、図書館で星座の本を一冊借りてきた。貸出票には返却日が月曜日と印字されていたので、姉は忘れないよう、その日付を手帳へ書き写した。夕食の前には目次を眺め、月の満ち欠けの章へ青い付箋を貼ってから、自分の机に本を置いた。展示では、星座の見つけ方だけでなく、月が日ごとに形を変えて見える理由も紹介するつもりだった。

二 土曜日、姉は朝早く部活動に出かけた。真帆は机の上の本に気づき、表紙の図書館シールを見てから、「少し読んでもいい？」とメッセージを送った。姉から「付箋はそのままにしてね。夕方には返して」と返事が来たので、真帆は本を居間へ運んだ。窓際の机に置き、飲み物を離してから、まず写真の多いページを開いた。

三 真帆は、昨日図書館で借りた姉の本を読み始めた。最初は星座の写真だけを見るつもりだったが、姉が付箋を貼った章にも目を通し、分かったことを自分のノートへ短くまとめた。夕方、帰宅した姉に本を返すと、真帆は「月の見え方の説明が面白かった」と話した。姉は「展示でもそこを紹介しようと思っている。真帆のノートも参考にしてよい？」と尋ねた。真帆はうなずき、二人で説明の順番を確かめた。

読むときの手がかり

下線部だけで決めず、誰が、いつ本を借りたかが書かれている箇所へ戻りましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 下線部の意味として、この文章の文脈に最も合うものを選びなさい。

ア	真帆が金曜日に借りた、姉の星座の本。
イ	姉が金曜日に借りた、星座についての本。
ウ	真帆が土曜日に借りた、姉の星座の本。
エ	姉が土曜日に借りた、真帆の星座の本。

問二 問一の判断の根拠になる表現を、第一段落と第二段落から一つずつ抜き出さなさい。

第一段落：

第二段落：

問三 下線部の「昨日」は、「借りた」と「読み始めた」のどちらにつながりますか。曜日も使い、三十字以上五十字以内で説明しなさい。

問四 本文で自然に選ばれる意味が一つに伝わるように、下線部を含む文を書き換えなさい。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

元の文では、「昨日」がどちらの動作につながるか、「作った」の主語は誰かが一つに決まりません。図の三つの欄を一つの文へ入れ、場面が迷わず伝わるようにします。

図の読み方

各行は一つの場面です。「昨日したこと」「作った人」「見た人」の全てを文に表します。主語を補う、語順を変える、二文に分けるなどの方法を使ってかまいません。

元の文 私は昨日工房で作った模型を見た。

場面	昨日したこと	作った人	見た人
場面 A	模型を作った	私	私
場面 B	模型を見た	技師	私

問一 A 場面 A の三つの情報が伝わるように、元の文を書き換えなさい。

問一 B 場面 B について、同じように元の文を書き換えなさい。

場面を整理して、書き換えてみよう 続き

次は、「丁寧に」が二つの動作のどちらを詳しくするかを、図から読み分けます。

元の文 私は丁寧に模型を直す技師を見た。

場面	丁寧に行動した人	直した人	見た人
場面 A	技師	技師	私
場面 B	私	技師	私

問二 A 場面 A の三つの情報が伝わるように、元の文を書き換えなさい。

問二 B 場面 B について、同じように元の文を書き換えなさい。

書き換えたあとの確認

主語だけでなく、時間・場所・様子を表す言葉の修飾先も、一つに読み取れる文になっていますか。

七 自分のことばで説明しよう

問一 一つの文が複数の意味に読める理由を、「修飾先」という言葉を使い、四十～六十字で説明しなさい。

問二 文脈は読みを選ぶときにどのように働き、書き手はどのように文を整えればよいですか。四十～六十字で説明しなさい。

八 この回のまとめ

一	二	三
修飾語は、つながる先によって文の意味を変える。	文脈は、省略された主語や自然な読みを選ぶ手がか りになる。	主語・語順・文の切れ目を整えると、誤解を減らせ る。

最後に

一つの文を丁寧に見ると、文法・読解・表現は別々ではなく、つながっていることが分かります。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解か不正解かだけで終わらず、どの言葉がどこにつながるかを確かめましょう。記述や書き換えは、必要な関係が一つに伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え Aの「昨日」→「借りた」／Bの「昨日」→「読んだ」

見るところ Aには「今日読んだ」とあるため、「昨日」は「借りた」につながります。Bでは「昨日」が「読んだ」の直前に置かれています。

問二

答え Aは本を借りた日、Bは本を読んだ日が昨日である。（二十四字）

見るところ 「昨日」がどちらの動作の時を示すかを比べます。

別解例 Aでは昨日に本を借り、Bでは昨日にその本を読んでいる。（二十七字）

☆自己採点の観点 AとBで、昨日に行った動作の違いが書けているか。

問三

答え 一つには決め切れない。

見るところ Cでは「昨日→借りた」と「昨日→読んだ」の両方が文の形から考えられます。語順から前者が先に浮かびやすくても、後者を一文だけで排除はできません。

ほかの答え方・考え方 「どちらにもつながる可能性がある」と書き、二つの意味を短く示してもよいでしょう。

☆自己採点の観点 二つの修飾先と、意味の違いに触れているか。

二 この文をほどいてみよう 解答

問一

答え 動きを表す言葉は「借りた」「読んだ」。一例では「昨日→借りた」「図書館で→借りた」。

見るところ どちらの言葉も、いつ・どこで行った動作かを詳しくします。ただし、「昨日」は「読んだ」へつなぐ読みも作れます。

問二

答え Aは図書館で借りたもの＝本、読んだ人＝私。Bは図書館で借りたもの＝友達、読んだ人＝私。

見るところ Aでは「昨日図書館で借りた」が「本」につながります。Bでは「昨日」は「読んだ」へ、「図書館で借りた」は「友達」へつながる読みを表します。

★自己採点の観点 「昨日」の修飾先と、図書館で借りたものの両方を区別できているか。

問三

答え 友達そのものを図書館で借りたことになる。

見るところ 「図書館で借りた」を「友達」に直接つなぐと、「[図書館で借りた友達]というまとまりになります。

問四

答え 文の形では「借りた」が「友達」を修飾できるが、図書館で人を借りることはふつうないため。（四十三字）

見るところ まず修飾の形を示し、そのあと現実の知識と照らします。

別解例 「借りた友達」というまとまりは作れるが、人を図書館で借りる場面は通常考えにくいから。（四十二字）

ほかの答え方・考え方 「文法上は作れる／文脈では選ばれにくい」という対比を入れても説明できます。

★自己採点の観点 文の形と現実の知識の二点が入っているか。

三 文法で整理しよう 確認

今回使った文法の言葉

修飾語は、ほかの言葉の内容を詳しくします。その修飾される側が被修飾語です。修飾先は語順だけで必ず決まるわけではないため、述語・省略された主語・前後の文を合わせて見ます。

四 意味の違いを確かめよう 解答

問一

答え （一）大きな→声で／声で→歌った。（二）小さな→鳥を／抱いた→係員が。

見るところ 一語だけでなく、「小さな鳥を抱いた」というまとまり全体が「係員が」を詳しくします。

問二

答え ア

見るところ Aの「静かに」は「読む」へ、Bの「静かに」は「見た」へつながりやすい位置にあります。

答案で注意したい点 イはA・Bを逆にし、ウ・エは一方の読みを両方へ広げています。

四 意味の違いを確かめよう 解答 続き

問三

答え 一 私が昨日、案内役を撮った写真を資料に入れた。／二 案内役が昨日撮った写真を、私が資料に入れた。

見るところ 「撮った」の主語を私と補うか、案内役と補うかによって二つの読みが生まれます。

別解例 一 昨日、私は案内役の写真を撮って資料に入れた。／二 案内役の撮影した写真を、私は昨日資料へ入れた。

ほかの答え方・考え方 二つの答えで、撮影者か、昨日行った動作のどちらかが明確に違っていればよいでしょう。

☆自己採点の観点 撮った人、または「昨日」の修飾先を二通りに分けているか。

問四

答え ウ

見るところ 「案内役が」を補い、写真を撮った人を明示しています。「昨日」も「撮った」の直前にあり、撮影の日を表します。

答案で注意したい点 アは元の曖昧さを残し、イは資料へ入れた日を昨日とします。エは撮った人を私に変えています。

書き換えで使える方法

省略された主語を補う／修飾語を詳しくする動作の近くへ置く／二つの動作を「～して、…」でつなぐ／必要なら二文に分ける。

五 文章の中で読もう 解答

問一

答え イ

見るところ 第一段落で姉が金曜日に本を借り、第二段落で真帆が土曜日にその本を読み始める準備をしています。

答案で注意したい点 ア・ウは本を借りた人を真帆へ変え、エは借りた日と本の持ち主を入れ替えています。

問二

答え 第一段落：「真帆の姉は……図書館で星座の本を一冊借りてきた」／第二段落：「姉から『付箋はそのままにしてね』と返事が来た」

見るところ 前者は借りた人と日を、後者は本が姉の管理する物であることを確かめる手がかりです。

☆自己採点の観点 異なる二段落から、借りた人を確かめられる表現を一つずつ抜き出しているか。

問三

答え 金曜日に姉が借り、土曜日に読み始めたので、昨日は借りたにつながる。（三十三字）

見るところ 下線部があるのは土曜日です。「昨日」は金曜日を指し、その日に起きた「借りた」を詳しくします。

別解例 真帆が読み始めたのは土曜日で、姉が本を借りた金曜日が昨日に当たるため。（三十五字）

ほかの答え方・考え方 曜日の対応を先に示しても、「借りた日／読み始めた日」を比べてもよいでしょう。

☆自己採点の観点 金曜日・土曜日と、二つの動作を結びつけているか。

問四

答え 真帆は、姉が昨日図書館で借りた本を読み始めた。

見るところ 「姉が」を補い、借りた人を明示しました。「昨日図書館で借りた」は「本」を詳しくするまとまりとして読みやすくなります。

別解例 昨日、姉が図書館で借りた本を、真帆は読み始めた。

ほかの答え方・考え方 「金曜日に姉が借りた」と曜日を直接書いてもかまいません。本文の出来事を変えず、借りた人と読んだ人を分けます。

☆自己採点の観点 姉が借り、真帆が読み始めたことが一つに伝わるか。

六 場面を整理して、書き換えてみよう 解答

問一 A

答え 昨日、私は工房で模型を作り、その模型を見た。

見るところ 図の三欄から、昨日した動作は「作った」、作った人と見た人はどちらも私だと読み取ります。

別解例 私は昨日、工房で模型を作ってから、その出来を見た。

ほかの答え方・考え方 「作ってから」「作り、その模型を」などで、同じ人が二つの動作をしたことを表せます。

☆自己採点の観点 昨日作ったこと、作った人、見た人の三点が伝わるか。

問一 B

答え 私は、技師が工房で作った模型を昨日見た。

見るところ 「技師が」を補い、作った人を明示しました。「昨日」は「見た」の近くへ置き、昨日した動作を一つにします。

別解例 技師が工房で作った模型を、私は昨日見学した。

ほかの答え方・考え方 「技師の作った模型」としてもよいでしょう。昨日が撮影日ではなく、見た日だと分かる位置へ置きます。

☆自己採点の観点 作った人が技師、昨日見た人が私だと分かるか。

六 場面を整理して、書き換えてみよう 解答 続き

問二 A

答え 私は、模型を丁寧に直す技師の作業を見た。

見るところ 「丁寧に」を「直す」の近くに置き、丁寧に行動した人を技師と読みやすくしました。

別解例 技師が模型を丁寧に直す様子を、私は見学した。

｜ほかの答え方・考え方 「技師が」を補うと、丁寧に直した人と、見た人の違いがさらに明確になります。

☆自己採点の観点 丁寧に直した人が技師、見た人が私だと伝わるか。

問二 B

答え 模型を直す技師を、私は丁寧に観察した。

見るところ 「丁寧に」を「観察した」の近くへ移し、私の見方を詳しくする言葉にしました。

別解例 私は、模型を直している技師の手元を丁寧に見た。

｜ほかの答え方・考え方 「注意深く」「じっくり」など、見る様子を表す別の言葉へ替えても成り立ちます。

☆自己採点の観点 模型を直した人が技師、丁寧に見た人が私だと伝わるか。

七 自分のことばで説明しよう 解答

問一

答え 時間や場所を表す語の修飾先と、省略された動作の主語が一つに定まらないことがあるため。（四十二字）

見るところ 複数の意味が生まれる原因を、修飾先と省略された主語の二点から説明しています。

別解例 一文に動作が二つあると、修飾先や書かれていない主語を複数の形で補えることがあるため。（四十二字）

｜ほかの答え方・考え方 「語順だけでは決められない」と補っても、「同じ言葉が二つの述語へつながる」と具体化してもよいでしょう。

☆自己採点の観点 『修飾先』を使い、何が一つに決まらないかを示しているか。

問二

答え 文脈は前後の出来事から自然な読みを選ぶ手がかりとなり、書き手は主語や語順を整えて示す。（四十三字）

見るところ 前半は読むときの文脈の働き、後半は書くときの工夫に答えています。

別解例 前後の文は省略された主語や修飾先を確かめる助けとなり、書くときは必要な語を補えばよい。（四十三字）

｜ほかの答え方・考え方 書き手の工夫には、「二文に分ける」「修飾語を近くへ置く」を挙げてもよいでしょう。

☆自己採点の観点 文脈の働きと、文を明確にする方法の両方が入っているか。

学習を終えて

□	□	□
修飾語とつながる先を線で確かめられた。	文の形と、文脈で自然な読みを区別できた。	主語や語順を整え、意味を一つにできた。

「に」と「と」で、関わりはどう見える？

――助詞と文の意味

第一冊 第二回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	人と動作の関係を見る	文法で整理する	文章で確かめる	自分の文を整える

この回で大切にすること

「に」と「と」が入れ替わると、人と動作の関わりが違って見えます。助詞だけで決めつけず、述語や文脈と合わせて読み、自分でも関係が伝わる文へ整えてみましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

次の二文は、どちらも私が先生に相談する場面です。二人の関わり方は同じでしょうか。まずは文法用語を使わずに考えます。

A 私は先生に相談した。

B 私は先生と相談した。

問一 A・B を、関わりの見え方に合う図と結びなさい。

①	私 → 先生 相談を持ちかける相手として先生を見る
②	私 ↔ 先生 相談に加わる相手として先生を見る

A－ () B－ ()

問二 二文だけから分かることとして、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

ア	A では、先生は相談中に一言も話していない。
イ	B では、二人は最後に同じ意見へまとまった。
ウ	A も B も、相談の相手として先生が関わっている。
エ	A も B も、相談のあとの判断は先生が下している。

問三 A と B の違いを、二十字以上四十字以内で説明しなさい。

二 この二文をほどいてみよう

文を短いまとまりに区切り、人を表す言葉がどの動作につながるかを確かめます。

A 私は | 先生に | 相談した。

B 私は | 先生と | 相談した。

問一 A・B の述語を丸で囲み、「先生に」「先生と」から、その述語へ矢印を引きなさい。そのうえで、表の空欄を埋めなさい。

文	人とつながる述語	関わりの見え方
A		
B		

見る順序

一 述語を見つける → 二 人を表すまとまりを見つける → 三 助詞が、その人と述語をどのような関係で結ぶかを考える

問二 A・B のどちらからも、相談のあとに誰が最終的な判断をしたかまで分かりますか。短く答えなさい。

文が述べている範囲

助詞から人と動作の関係は読めます。しかし、相談の話題、話した量、最後に決めた人まで、すべてが一文に書かれているわけではありません。

動作が変わると、関係も変わる

同じ「に」「と」でも、つながる述語が変われば、人の役割の読み方も変わります。

問三 次の A・B を、意味に合う説明①・②と結びなさい。

A	私は友達に大会の結果を話した。
B	私は友達と大会の結果について話した。
①	友達を話し相手として、結果についてやり取りした。
②	友達を伝える相手として、大会の結果を知らせた。

A－（ ） B－（ ）

問四 次の A・B を、意味に合う説明①・②と結びなさい。

A	私は弟に弁当を作った。
B	私は弟と弁当を作った。
①	弟も作る側に加わり、二人で弁当を用意した。
②	弟を食べる相手として、そのために弁当を用意した。

A－（ ） B－（ ）

三 文法で整理しよう

ここまで意味から考えてきたことは、学校文法では次のように整理できます。用語は、意味の違いを確かめるための道具として使います。

用語	意味	この回の例
文節	意味や音のまとまりで区切った、文の小さな単位。	私は 先生に 相談した
助詞	ほかの言葉に付き、言葉どうしの関係などを示す語。	先生+に／先生+と
格助詞	名詞などに付き、述語との関係を示す助詞。	に・と（今回の使い方）
述語	文の中で、動作・状態・判断などを述べる中心。	相談した／話した／届けた

述語と合わせて読もう

述語	「に」で結ぶ	「と」で結ぶ
相談した	先生に：相談を持ちかける相手	先生と：相談に加わる相手
話した	友達に：内容を伝える相手	友達と：話のやり取りをする相手
作った	弟に：弁当を食べる相手	弟と：一緒に作る相手

大切な区別

「に」なら一方的、「と」なら対等、といつも決められるわけではありません。助詞は関係の焦点を示しますが、話し方の強さ、立場の上下、意見が一致したかどうかまでは、それだけでは決まりません。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の A・B の違いとして、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

A	私は友達に、転校のことを話した。
B	私は友達と、転校のことを話した。
ア	A は友達へ内容を伝える側面を、B は友達とのやり取りを示す。
イ	A は友達とのやり取りを、B は友達へ内容を伝える側面を示す。
ウ	A も B も、友達が一人で転校のことを話したと示している。
エ	A も B も、私が友達へ命令を伝えたことまで示している。

問二 次の A・B の違いとして、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

A	私は先輩に調査の結果を発表した。
B	私は先輩と調査の結果を発表した。
ア	A では先輩も発表者で、B では先輩が聞き手になる。
イ	A では先輩が聞き手で、B では先輩も発表者になる。
ウ	A も B も、先輩が一人で調査結果を発表している。
エ	A も B も、先輩が調査を行ったことまで表している。

意味の違いを確かめよう 続き

問三 「母と一緒に駅まで歩いた」と伝えたいのに、「私は母に駅まで歩いた。」と書きました。文を直し、理由も書きなさい。

問四 「『に』は一方的な関係を、『と』は対等な関係を表す」と、いつでも決めてよいですか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

少し深く考える――どちらも自然なことがある

「駅で先生に会った」「駅で先生と会った」は、どちらも自然に使えます。「と」が予定して会う感じを帯びることはありますが、助詞だけで予定か偶然かを断定はできません。動詞ごとの使われ方と、前後の文脈を確かめる必要があります。

判断の手がかり

一 助詞を見る 二 述語を見る 三 前後の文脈を見る。どれか一つだけで決めず、三つを合わせます。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。下線部では、同じ「相談した」でも助詞が使い分けられています。

一 町の水辺観察会を手伝う湊と紬は、小学生の班が歩く順路を考えていた。川沿いには、水鳥を見やすい観察台、湧き水のそばの木道、草花の多い土手がある。観察台では鳥を驚かせないよう声を小さくし、土手では虫や花を記録する予定だった。木道は水辺に近く、子どもたちが楽しみにしている場所でもある。前日の雨で滑りやすい所があり、班の歩く速さや休憩の取り方も考える必要があったため、どこから回るか迷っていた。

二 湊は自然観察員の大橋さんに相談した。湊は、雨の翌朝に注意する場所を地図で示してほしいと頼んだ。大橋さんは、朝は木道が濡れているかもしれないので、まず観察台へ向かう案を示し、土手の急な斜面には近づかないよう助言した。ただし、「当日の水位を確かめ、最後の順路は二人で決めるとよい」と付け加えた。湊はその助言を紬に伝え、それから紬と相談した。二人は地図と天気の詳細を見比べ、観察台、土手、木道の順に回ることを決めた。さらに、木道へ入る前に引率者が水位を確かめ、危険なら手前で引き返すという約束も加えた。

三 打合せで担当者が「大橋さんが順路を決めたの？」と尋ねた。湊は「大橋さんに相談しました。でも、順路は紬と相談して決めました」と答えた。そして、助言を受けたことと、最終案を二人で選んだことは別だと説明した。担当者は役割の違いを確かめ、当日の案内表へ二人の決定を書き込んだ。

読むときの手がかり

「に」「と」だけを見るのではなく、大橋さんと紬が実際に何をしたかが書かれている文へ戻りましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第二段落の二つの相談の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

ア	大橋さんから安全面の助言を受け、紬とは順路全体を検討した。
イ	大橋さんと順路を決定し、紬から水位の助言だけを受けた。
ウ	大橋さんにも紬にも、完成した順路を一方向的に伝えた。
エ	大橋さんとも紬とも、同じ役割で最終順路を決定した。

問二 大橋さんがしたことと、湊・紬がしたことを示す表現を、第二段落からそれぞれ一つずつ抜き出ささい。

大橋さん：

湊・紬：

問三 湊が第三段落で「でも」と言い、説明を続けたのはなぜですか。三十字以上五十字以内で説明しなさい。

問四 文章全体の内容を最も正確にまとめた文を、ア～エから一つ選びなさい。

ア	湊は大橋さんと最終順路を決め、その結果だけを紬へ伝えた。
イ	湊は大橋さんの案に従い、紬とは相談せず順路を作った。
ウ	湊は大橋さんから助言を受け、紬と相談して順路を決めた。
エ	湊は紬から助言を受け、大橋さんと相談して順路を決めた。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

次の文だけでは、最初に出てくる相手が、そのあとの動作にどこまで加わったかが十分に伝わりません。下の図は、この文で伝えたい場面を二通りに整理したものです。

図の読み方と取り組み方

「→」は左の人から右の人への働きかけを、「↔」は二人がやり取りする関係を表します。各図の二つの欄に示された内容を一つの文に表し、読み手が場面を一つに決められるように整えましょう。助詞だけでなく、主語・述語や「自分で」「一緒に」などを変えてもかまいません。答え方は一つではありません。

元の文 先生に相談して、応募する作品を決めた。

場面の整理	相談	作品を決めた人
場面 A	私 → 先生	私
場面 B	私 ↔ 先生	私・先生

問一 A 場面 A にある二つの情報が、一つの文からどちらも伝わるように、元の文を書き換えなさい。

問一 B 場面 B について、同じように元の文を書き換えなさい。

場面を整理して、書き換えてみよう 続き

次は、「声をかけた相手」が飾り作りにも加わったかどうかを、図から読み分けます。右端の欄まで伝わる文にしてください。

元の文 友達に声をかけて、展示の飾りを作った。

場面の整理	声をかける	飾りを作った人
場面 A	私 → 友達	私
場面 B	私 → 友達	私・友達

問二 A 場面 A にある二つの情報が、一つの文からどちらも伝わるように、元の文を書き換えなさい。

問二 B 場面 B について、同じように元の文を書き換えなさい。

書き換えたあとの確認

最初の相手が、あとの動作にも加わったのか、それとも加わらなかったのかを、読み手が迷わず判断できる文になっていますか。

七 自分のことばで説明しよう

問一 助詞の意味を考えると、なぜ述語と合わせて読む必要がありますか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問二 「私は先生に相談した」と「私は先生と相談した」の違いと、二文だけでは分からないことを、四十～六十字で説明しなさい。

八 この回のまとめ

一	二	三
助詞は、人を表す言葉と述語の関係を示す。	同じ助詞でも、述語や文脈により役割が変わる。	関係が伝わるように、助詞や主語を整えられる。

最後に

一字の助詞も、文の中で人と人をどのように結ぶかを支えています。ただし、その一字だけに意味を背負わせすぎず、文が実際に述べている範囲を丁寧に確かめましょう。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解か不正解かだけで終わらず、人を表すまとまりがどの述語につながり、どのような役割として読めるかを確かめましょう。記述や書き換えは、模範解答と同じ言い方でなくても、指定された関係が一つに伝わればよいものがあります。

一 まず比べてみよう

問一

答え A―①、B―②

見るところ Aの「先生に」は相談を持ちかける相手、Bの「先生と」は相談に加わる相手として読みやすい表現です。

問二

答え ウ

見るところ 二文とも、私が相談し、先生が相談の相手として関わります。

答案で注意したい点 アは先生の発言量、イは意見の一致、エは最終判断者まで、元の文にない内容を加えています。

問三

答え 「に」は相談を持ちかける相手を、「と」は一緒に相談する相手を表しやすい。（三十六字）

見るところ 相談という同じ動作でも、先生がどのように関わる相手として示されるかを比べます。

別解例 「に」は助言を求める相手を、「と」は相談に加わる相手を示しやすい。（三十三字）

ほかの答え方・考え方 「助言を求める相手／相談に加わる相手」などの対比でもよいでしょう。「一方的／対等」と助詞だけで決めつけなければ成り立ちます。

☆自己採点の観点 「に」と「と」の両方について、人の関わり方の違いが書けているか。

二 この二文をほどいてみよう

問一

答え A・Bとも述語は「相談した」。Aは「先生に→相談した」、Bは「先生と→相談した」。

見るところ 助詞だけを切り離さず、「先生に／先生と」というまとまりと、「相談した」という述語のつながりを見ます。

二 この二文をほどいてみよう 続き

問二

答え 分からない。

見るところ 二文から分かるのは、私と先生が相談に関わったことです。相談後の決定や、その決定者は書かれていません。

★自己採点の観点 「相談したこと」と「最終的に決めたこと」を分けて考えられているか。

問三

答え A―②、B―①

見るところ 「友達に話した」は友達へ内容を伝える側面を、「友達と話した」は友達とのやり取りを表しやすい文です。

問四

答え A―②、B―①

見るところ 「弟に作った」では弟が弁当を食べる相手、「弟と作った」では弟も作る動作に加わる相手です。

三 文法で整理しよう 確認

今回使った文法の言葉

「に」「と」は助詞です。今回の使い方では、名詞に付いて述語との関係を示す格助詞として整理できます。ただし、「に」には時や場所を示す使い方、「と」には引用を示す使い方などもあります。この回では、人と動作の関係にしぼりました。

四 意味の違いを確かめよう 解答

問一

答え ア

見るところ Aは友達へ転校のことを伝える側面、Bは友達と転校のことについて話し合う側面が前に出ます。

答案で注意したい点 イはA・Bを逆にしています。ウは話した人を友達へ変え、エは「命令」という元の文にない内容を加えています。

問二

答え イ

見るところ Aの先輩は発表を聞く側、Bの先輩は私と一緒に発表する側です。

答案で注意したい点 アはA・Bを逆にしています。ウは発表した人を先輩だけに変え、エは調査した人という書かれていない情報を加えています。

問三

答え 「母に」を「母と」に直す。歩く動作を一緒にした相手だから。

見るところ 「歩く」の仲間を示したいので、「と」が自然です。「母に」では、母を歩く動作の相手として結びにくい文になります。

別解例 「私は母と駅まで歩いた」と直す。「と」が一緒に歩く相手を表すため。

ほかの答え方・考え方 「母と一緒に」と書き換えて、意味をさらに明確にしてもよいでしょう。直した助詞だけでなく、その助詞が「歩く」にどうつながるかを説明できれば、異なる言い方でも成り立ちます。

★自己採点の観点 直す箇所と、「一緒に歩く相手」という理由の両方が書けているか。

問四

答え 決めてはいけない。助詞は述語との関係を示すが、立場や話し方までは決めないから。（三十九字）

見るところ 「に」「と」が示すのは、文の中での関係の焦点です。一方的か、対等か、意見が一致したかは、前後の文や場面から判断します。

別解例 いつでもは決められない。人の立場は、述語や文脈も合わせて判断するから。（三十五字）

ほかの答え方・考え方 「話し方の強さまでは分からない」「上下関係は助詞だけでは決まらない」「意見が一致したかは別の情報である」など、決められない内容を具体的に一つ挙げて説明できます。

★自己採点の観点 いつでも決められないことと、述語・文脈を見る必要の両方が入っているか。

「会う」の例

「先生に会った」「先生と会った」のように、どちらも自然で差が小さい場合もあります。動詞ごとの使われ方があるため、規則を広げすぎないことが大切です。

五 文章の中で読もう 解答

問一

答え ア

見るところ 大橋さんは安全面から案を示して助言し、紬は湊と地図や記録を見ながら最終の順路を検討しています。

答案で注意したい点 イ・エは最終順路を決めた相手は大橋さんへ変えています。ウは二人とのやり取りを『一方的に伝えた』としています。

問二

答え 大橋さん：「まず観察台へ向かう案を示した」／湊・紬：「観察台、土手、木道の順に回ることを決めた」

見るところ 前者は助言の内容、後者は最終的な決定を直接示しています。

★自己採点の観点 助言した人と、決めた人が異なることの根拠を一つずつ抜き出しているか。

問三

答え 大橋さんは助言をしただけで、順路を決めたのは湊と紬の二人だったから。（三十四字）

見るところ 担当者の質問は「相談した人」と「決めた人」を同じだと受け取っています。湊は「でも」に続けて、その二つを区別しました。

別解例 大橋さんに相談はしたが、最終的には紬と話し合って順路を決めたから。（三十三字）

ほかの答え方・考え方 「助言した人と決定した人が違う」とまとめても、「担当者の受け取り方を訂正するため」と『でも』の働きから説明してもよいでしょう。どちらの場合も、大橋さんの助言と湊・紬の決定を本文の表現に基づいて区別します。

★**自己採点の観点** 大橋さんの助言と、湊・紬の決定を区別できているか。

問四

答え ウ

見るところ 助言を受けた相手は大橋さん、相談して順路を決めた相手は紬です。

答案で注意したい点 ア・イは紬との相談を消し、エは大橋さんと紬の役割を入れ替えています。

六 場面を整理して、書き換えてみよう 解答

問一 A

答え 私は先生に相談したあと、応募する作品は自分で決めた。

見るところ 図の左欄から相談相手を、右欄から決めた人を読み取ります。「自分で」によって、先生は助言をする相手であり、決定者ではないことを明確にしました。

別解例 先生から助言を受けたが、応募する作品を決めたのは私である。

ほかの答え方・考え方 「自分で」「私が」「私一人で」など、決めた人を示す表現が使えます。先生の助言を受けたことと、決定した人が私であることの両方を残します。

★**自己採点の観点** 先生に相談したことと、作品を決めたのは私であることが、一つの文から分かるか。

問一 B

答え 私は先生と相談し、応募する作品を二人で決めた。

見るところ 図の左欄と右欄のどちらにも私と先生がいます。「先生と」「二人で」を用い、相談と決定の両方へ二人が加わったことを示しました。

別解例 先生と私は話し合い、応募する作品を一緒に選んだ。

ほかの答え方・考え方 「一緒に」「二人で」「先生と私は」などを使えます。相談した相手を示すだけで終わらず、作品選びにも二人が加わったことを表します。

★**自己採点の観点** 先生と私が相談し、作品も二人で決めたことが伝わるか。

問二 A

答え 私は友達に声をかけたあと、展示の飾りは一人で作った。

見るところ 「友達に」は声をかけた相手です。「一人で」を補い、友達は飾り作りには加わらなかったことを明確にしました。

別解例 友達には声をかけたが、展示の飾りを作ったのは私一人だった。

ほかの答え方・考え方 「一人で」「私だけで」「作ったのは私だ」などの表現で、あとの動作をした人を示せます。友達に声をかけた事実は消さないようにします。

★**自己採点の観点** 友達に声をかけたことと、飾りを作ったのは私だけであることが区別できるか。

問二 B

答え 私は友達に声をかけ、友達と一緒に展示の飾りを作った。

見るところ 「友達に」は声をかけた相手、「友達と」は一緒に飾りを作った相手です。同じ人物でも、二つの動作との関係をそれぞれ示しました。

別解例 私は友達を誘い、二人で展示の飾りを作った。

ほかの答え方・考え方 「友達と」「一緒に」「二人で」などを使い、友達が声をかけられただけでなく、飾り作りにも加わったことを表します。

★**自己採点の観点** 友達が飾り作りにも加わったことが、一つに伝わるか。

七 自分のことばで説明しよう 解答

問一

答え 助詞が示す人の役割は、つながる述語によって変わるため、両方を合わせて読む必要がある。（四十二字）

見るところ 「先生に相談した」「弟に弁当を作った」では、同じ「に」でも人の役割が違います。述語まで見て初めて関係が分かります。

別解例 同じ助詞でも述語が変われば人と動作の関係が変わるので、合わせて読む必要がある。（三十九字）

ほかの答え方・考え方 「助詞だけでは役割が一つに決まらない」と説明しても、「相談した／作った」の具体例で違いを示してもかまいません。助詞と述語の両方を見る理由を伝えます。

★**自己採点の観点** 助詞だけでなく述語を見る理由を、関係の変化と結びつけているか。

問二

答え 「に」は相談を持ちかける相手を、「と」は相談に加わる相手を示しやすいが、最終的に決めた人までは分からない。（五十三字）

見るところ 前半で二文の違い、後半で文が述べていないことを示しています。

別解例 先生に相談した文は先生を相談先として、先生と相談した文は先生を参加者として示すが、決定者はどちらも不明である。（五十五字）

ほかの答え方・考え方 決められないことには、「意見が一致したか」「先生がどのくらい話したか」なども挙げられます。二文の違いを先に示し、書かれていない内容を一つ区別しましょう。

★**自己採点の観点** 「に」「と」の違いと、一文だけでは決められないことの両方が入っているか。

学習を終えて

□	□	□
人を表すまとまりと述語を結んで読めた。	助詞だけで、立場や結論を決めつけなかった。	意図した関係が伝わる文へ書き換えられた。

「は」と「が」で、何が前に出る？

——話題・主語・対比

第一冊 第三回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	文のつながりを見る	文法で整理する	文章で確かめる	自分の文を整える

この回で大切にすること

同じ出来事でも、「は」と「が」の選び方や語順によって、答えとして前に出るもの、話題として続くもの、比べられるものが変わります。助詞だけで決めつけず、問いと文脈を合わせて読みましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

次の二つの問いと答えを比べます。どちらも、結衣が古い時計を直したという同じ出来事を表しています。

問い①	だれが古い時計を直したのですか。
問い②	結衣は何をしたのですか。

A 結衣が古い時計を直しました。

B 結衣は古い時計を直しました。

問一 A・B を、それぞれ最も自然に答えられる問い①・②と結びなさい。

A－ () B－ ()

問二 A・B の違いとして、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

ア	A は時計を話題にし、B は直した人を新しく答えている。
イ	A は直した人を答え、B は結衣についてしたことを述べている。
ウ	A では結衣が直し、B では別の人が時計を直している。
エ	A も B も、結衣以外は修理に加わらなかったと示している。

問三 A と B で、文の前に出る情報がどう違うか、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

二 この三文をほどいてみよう

三文の出来事は同じです。誰が直したかと、何について述べる文かを分けて確かめます。

A 結衣が古い時計を直した。

B 結衣は古い時計を直した。

C 古い時計は結衣が直した。

問一 三文の述語を丸で囲み、時計を直した人を示すまとまりへ一本線を引きなさい。

問二 「結衣が」「結衣は」「古い時計は」が、各文でどのような役割を持つか、表の空欄を埋めなさい。

文	見るまとまり	文の中での役割
A	結衣が	()
B	結衣は	()
C	古い時計は	()

問三 Cの一文だけからは分からないことを、ア～エから一つ選びなさい。

ア	古い時計を直した人は結衣である。
イ	この文の述語は「直した」である。
ウ	古い時計が話題として置かれている。
エ	結衣はほかの道具を一つも直していない。

問四 「は」が付くと、いつでもほかのもののとの対比になりますか。二十字以上四十字以内で答えなさい。

三 文法で整理しよう

「は」と「が」を一語ずつ暗記するのではなく、主語・話題・対比が文の中でどう働くかを整理します。

用語	意味	この回の例
主語	述語が表す動作・状態の主体となるまとまり。	結衣が → 直した
述語	動作・状態・判断などを述べる文の中心。	直した
話題	その文が何について述べるかを示すもの。	古い時計は.....
対比	二つ以上を並べ、違いを意識させる働き。	時計は直す／温度計は磨く
助詞	語に付き、ほかの語との関係や話題などを示す。	が／は

「結衣は」をどう見るか

「結衣は古い時計を直した」では、結衣が話題であり、直した人も結衣です。学校文法では「結衣は」を主語として扱うこともあります。この回では意味を丁寧にみるため、「誰が動作したか」と「何について述べるか」を分けて確かめます。

決めつけない

「が＝いつも新しい情報」「は＝いつも古い情報」と固定しません。問い、前の文、対比されるものによって働きを確かめます。

四 意味の違いを確かめよう

問一 「だれが窓を閉めましたか」という問いに、閉めた人を最も直接に答える文を選びなさい。

ア	真帆は窓を閉めました。
イ	真帆が窓を閉めました。
ウ	窓は真帆を閉めました。
エ	窓は閉めてありました。

問二 「資料は奏がまとめた」が最も自然に続く問いを、ア～エから一つ選びなさい。

ア	その資料は、だれがまとめたのですか。
イ	奏は、どの資料を読んだのですか。
ウ	資料は、いつ配られたのですか。
エ	だれが写真を整理したのですか。

意味の違いを確かめよう 続き

一階は図書室として使い、二階は資料室として使う。

問三 上の文で対比されている二つのものと、それぞれの使い方を書きなさい。

問四 「私は観察会に参加します」と言うと、ほかの人は参加しないことまで必ず分かれますか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

少し深く考える

「は」は、話題を置くだけのこともあれば、ほかの人や物との違いを意識させることもあります。対比される相手が本文にあるか、会話の流れから想定されるかを確かめましょう。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。「は」と「が」が、問いへの答えや道具どうしの対比に使われています。

一 商店街の時計修理工房で、結衣は職場体験をした。店では、修理を終えた道具を週末の展示で紹介することになっていた。作業台には、長く止まったままの古い壁時計と、針が外れた小さな温度計が置かれていた。職人の坂井さんは、結衣に道具の名前と安全な使い方を説明し、部品を外す前と戻した後の状態を記録するよう伝えた。結衣は二つの道具を写真に撮り、作業表へそれぞれの不具合を書き込んだ。

二 結衣は壁時計の裏ぶたを外し、歯車の間に詰まったほこりを取り除いた。坂井さんに確認してもらいながら外れたばねを掛け直すと、時計の針がゆっくり動き始めた。古い時計は結衣が直した。結衣は作業表の時計の欄に、ほこりを除いたことと、ばねを掛け直したことを記録した。一方、細かな部品の交換が必要だった温度計は、坂井さんが修理した。坂井さんも温度計の欄へ、交換した部品の名前を書き加えた。

三 翌日、店を訪れた記者が「だれが古い時計を直したのですか」と尋ねた。坂井さんは「結衣が直しました」と答え、温度計については自分が担当したと説明した。記者は作業表を見せてもらい、どの道具を誰が受け持ったのかを一つずつ確認した。記事では、古い時計を直した結衣の仕事と、温度計を修理した坂井さんの仕事が分けて紹介された。展示の札にも、それぞれの担当者が記された。

読むときの手がかり

問いが何を尋ねているか、前後でどの道具が話題になっているかを確かめましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第三段落の記者の問いに、直した人を最も直接に答えている文を選びなさい。

ア	古い時計は動き始めました。
イ	結衣が古い時計を直しました。
ウ	結衣は職場体験をしました。
エ	坂井さんは温度計を直しました。

問二 第二段落の「古い時計は結衣が直した」で、主語と話題をそれぞれ抜き出さない。

主語：

話題：

問三 「古い時計は」と対比される道具を、第二段落から一語で抜き出さない。

問四 「古い時計は結衣が直した」だけでは、結衣が温度計も直したとは言えないのはなぜですか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

同じ出来事でも、直前の問いによって、答えとして前に置きたい情報が変わります。図の「前の文・問い」に合うように、「は」「が」と語順を選びましょう。

図の読み方

事実は変えません。場面 A では修理した人を答え、場面 B では結衣を話題にして、結衣がしたことを述べます。

場面	前の問い	直した人	直した物
場面 A	だれが古い時計を直した？	結衣	古い時計
場面 B	結衣は職場体験で何をした？	結衣	古い時計

問一 A 場面 A への答えとなる一文を書きなさい。

問一 B 場面 B への答えとなる一文を書きなさい。

場面を整理して、書き換えてみよう 続き

次は、一つの仕事を答える場面と、二つの仕事を対比する場面を分けます。右端まで、一つの文または二つの文に表してください。

場面	伝える目的	担当者	担当した物
場面 A	だれが記録をまとめた？	奏	記録
場面 B	仕事を分けて伝える	奏／凜	記録／写真

問二 A 場面 A への答えとなる一文を書きなさい。

問二 B 奏が記録をまとめ、凜が写真を整理したことを、二つの仕事の対比が伝わるように書きなさい。

書き換えたあとの確認

誰を答えとして前に出すのか、何を話題や対比の対象にするのかが、文脈に合っていますか。

七 自分のことばで説明しよう

問一 「結衣が古い時計を直した」と「結衣は古い時計を直した」の違いを、問いとの関係も含め、四十～六十字で説明しなさい。

問二 「古い時計は結衣が直した」で、主語が結衣、話題が古い時計になる理由を、四十～六十字で説明しなさい。

八 この回のまとめ

一	二	三
「が」は、問いに対して主語を直接示す働きをすることがある。	「は」は、話題を置き、文脈によって対比も表す。	「は」の付いたまとまりが、いつも主語になるとは限らない。

最後に

助詞一字だけを見るのではなく、何を尋ねられ、何について話が続き、何と何が比べられているかを確認しましょう。

解答・解説

答え合わせの仕方

答えだけでなく、問い・話題・対比のどれを手がかりにしたかを確認しましょう。「は」と「が」は、一語の決まりではなく、文と文脈の中で働きます。

一 まず比べてみよう

問一

答え A-①、B-②

見るところ 問い①は直した人を尋ねるため「結衣が」が直接の答えになります。問い②では、すでに話題になっている結衣についてしたことを述べます。

問二

答え イ

見るところ Aは「だれが」に結衣を入れ、Bは結衣を話題として、その行動を続けています。

答案で注意したい点 アはA・Bを逆にし、ウは出来事を変え、エはほかの人の関与まで決めています。

問三

答え Aは時計を直した人を答えとして示し、Bは結衣を話題にして、その行動を述べている。(四十字)

見るところ 同じ出来事でも、問いへの答えと、話題の置き方が異なります。

別解例 Aでは結衣が修理した人として前に出て、Bでは結衣について何をしたかが続けられる。(四十字)

ほかの答え方・考え方 「未知の人への答え／すでに置かれた話題」という対比でもよいですが、いつでも新情報・旧情報と固定しないようにします。

☆自己採点の観点 Aで答える情報と、Bで話題になる情報を区別しているか。

二 この三文をほどいてみよう 解答

問一

答え 三文とも述語は「直した」。時計を直した人は、A「結衣が」、B「結衣は」、C「結衣が」。

見るところ Bの「結衣は」は結衣を話題にしながら、直した人も表します。Cでは「古い時計は」と「結衣が」の役割が分かります。

問二

答え A「結衣が」＝主語。B「結衣は」＝結衣を話題にし、動作をした人も示す。C「古い時計は」＝話題となる対象。

見るところ 「は」の付いたまとまりをすべて主語とせず、述語「直した」を実際に行った人を確認めます。

★自己採点の観点 主語と話題を同じものとして機械的に扱っていないか。

問三

答え エ

見るところ Cが述べるのは、古い時計を結衣が直したことです。結衣がほかの道具を直したかどうかは書かれていません。

答案で注意したい点 ア〜ウは、文の形から確かめられる内容です。

問四

答え いつでも対比になるとは限らず、話題を置くだけかどうかは文脈で決まる。（三十四字）

見るところ 比較される人や物が前後にあると対比が強くなりますが、「は」だけで必ず対比とは決まりません。

別解例 「は」は話題を示すこともあるため、対比かどうかは前後の文から判断する。（三十五字）

★自己採点の観点 必ずではないことと、文脈を見る必要を書いているか。

三 文法で整理しよう 確認

見る順序

一 述語を見つける 二 誰がその動作・状態を担うかを見る 三 何が話題として置かれているかを見る 四 前後に対比されるものがあるか確かめる。

四 意味の違いを確かめよう 解答

問一

答え イ

見るところ 「だれが」に直接入る「真帆が」を用いて、窓を閉めた人を答えています。

答案で注意したい点 アも事実は表せますが、ここでは問いに対し、閉めた人を最も直接に示す文を選びます。ウは役割が逆で、エは閉めた人を示しません。

問二

答え ア

見るところ 「資料は」を話題にし、その資料をまとめた人として「奏が」を示す文です。

答案で注意したい点 イは読んだ資料を、ウは時を、エは別の仕事の担当者を尋ねています。

四 意味の違いを確かめよう 解答 続き

問三

答え 一階＝図書室として使う／二階＝資料室として使う。

見るところ 「一階は」「二階は」を並べることで、二つの階と異なる使い方を対比しています。

★自己採点の観点 比べられる二つの階と、それぞれの用途が対応しているか。

問四

答え 必ずは分からない。「私は」は参加する人を話題にするだけの場合もあり、ほかの人の予定は別だから。（四十七字）

見るところ 「私は」が対比を帯びる場面はありますが、元の一文だけでは、ほかの人が参加するかどうかは決まりません。

別解例 ほかの人が参加しないとは限らない。「は」が対比か単なる話題かは、前後の会話で確かめる。（四十三字）

｜ほかの答え方・考え方 「私は参加するが、友達は参加しない」のような続きがあれば対比が明確になる、と例を添えてもよいでしょう。

★自己採点の観点 ほかの人までは決められないことと、文脈の必要を書いているか。

答案で注意したい点

「は」は対比を表すことがある、という学びを、「は」は必ず対比である、へ広げすぎないようにします。

五 文章の中で読もう 解答

問一

答え イ

見るところ 記者は「だれが」と修理した人を尋ね、坂井さんは「結衣が」と答えています。

答案で注意したい点 アは時計の状態、ウは職場体験、エは温度計について述べています。

問二

答え 主語：「結衣が」／話題：「古い時計は」

見るところ 述語「直した」を行った人は結衣です。古い時計は、その文で取り上げて述べる対象です。

★自己採点の観点 「は」が付く古い時計を、直した人と取り違えていないか。

問三

答え 温度計

見るところ 直後の「一方」という表現と、「温度計は坂井さんが修理した」という内容から対比が分かります。

問四

答え 古い時計を話題にして結衣が直したと述べる文で、温度計を誰が直したかまでは含まないため。（四十三字）

見るところ 一文が述べる範囲を守ります。温度計については、次の文で坂井さんが修理したと分かります。

別解例 結衣が担当したと書かれているのは古い時計だけで、ほかの道具の担当者は別に確かめるため。（四十三字）

ほかの答え方・考え方 「は」が対比を含む可能性に触れてもよいですが、本文の次の文を根拠にするとより確かです。

☆自己採点の観点 古い時計についての文であることと、温度計は別だと示しているか。

六 場面を整理して、書き換えてみよう 解答

問一 A

答え 結衣が古い時計を直した。

見るところ 「だれが」という問いへ、直した人を「結衣が」で直接答えます。

別解例 古い時計を直したのは結衣です。

ほかの答え方・考え方 「～のは結衣だ」という形も、人物を答えとして前に出せます。

☆自己採点の観点 結衣が修理した人だと、問いに直接答えているか。

問一 B

答え 結衣は職場体験で古い時計を直した。

見るところ 結衣を話題に置き、その人が職場体験で何をしたかを続けます。

別解例 職場体験で、結衣は古い時計を修理した。

ほかの答え方・考え方 時間や場面を文頭へ置いても、「結衣は」を話題として保てます。

☆自己採点の観点 結衣について、したことを答える文になっているか。

六 場面を整理して、書き換えてみよう 解答 続き

問二 A

答え 奏が記録をまとめた。

見るところ 「だれが」という問いへ、担当者の奏を主語として示します。

別解例 記録をまとめたのは奏だ。

ほかの答え方・考え方 問一 A と同じく、「～のは」の形も使えますが、事実を変えません。

☆自己採点の観点 記録をまとめた人が奏だと分かるか。

問二 B

答え 記録は奏がまとめ、写真は凜が整理した。

見るところ 「記録は」「写真は」を対比し、それぞれの担当者を「奏が」「凜が」で示します。

別解例 奏は記録をまとめ、凜は写真を整理した。

ほかの答え方・考え方 人を対比する書き方も成り立ちます。何と何の違いを前に出したいかに合わせて選びます。

☆自己採点の観点 二つの仕事と担当者の対応が一つに伝わるか。

七 自分のことばで説明しよう 解答

問一

答え 「が」の文はだれが直したかへの答えとなり、「は」の文は結衣を話題にして行動を述べる。(四十二字)

見るところ 二文の違いを、助詞の名称だけでなく、問いへの答えと話題の継続に結びつけます。

別解例 前者は修理した人を結衣だと直接示し、後者は結衣について何をしたかを続ける文である。(四十一字)

ほかの答え方・考え方 「が＝主語を答える／は＝話題を置く」と短く整理してもよいでしょう。ただし、どのような問いに合うかを添えます。

☆自己採点の観点 「が」の文と「は」の文の両方を、問い・話題と結びつけているか。

問二

答え 「直した」の動作主は「結衣が」で示され、「古い時計は」は何について述べるかを置くため。(四十三字)

見るところ 述語とのつながりから主語を、文全体で取り上げる対象から話題を確かめます。

別解例 結衣が修理を行った人に当たり、古い時計は修理について取り上げられる対象に当たるから。(四十二字)

ほかの答え方・考え方 「古い時計は」は「直された物」であり、直す動作をした主体ではない、と説明してもよいでしょう。

☆自己採点の観点 主語と話題の役割を、述語「直した」と結びつけているか。

学習を終えて

□	□	□
問いに合う「は」「が」を選べた。	主語と話題を分けて読めた。	対比かどうかを文脈で確かめられた。

書かれていない主語は、だれ？

――主語の省略と切り替わり

第一冊 第四回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	文のつながりを見る	文法で整理する	文章で確かめる	自分の文を整える

この回で大切にすること

日本語では、前後から分かる主語を繰り返さないことがあります。しかし、人物が二人以上いると、誰の行動かが揺れることもあります。述語・会話・行動の順序を手がかりに、主語の継続と切り替わりを確かめましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

次の三つは、地図を渡した後の場面です。二文目の主語が書かれている A・B から比べます。

A 拓海は陸に地図を渡した。拓海は、しばらく眺めてから北の道へ進んだ。

B 拓海は陸に地図を渡した。陸は、しばらく眺めてから北の道へ進んだ。

問一 A・B で、地図を眺め、北の道へ進んだ人をそれぞれ答えなさい。

C 拓海は陸に地図を渡した。しばらく眺めてから、北の道へ進んだ。

問二 C の二文だけから分かることとして、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

ア	地図を眺め、北へ進んだのは必ず拓海である。
イ	地図を眺め、北へ進んだのは必ず陸である。
ウ	拓海か陸のどちらかだが、一人に決め切れない。
エ	二人は地図を見ず、それぞれ別の道へ進んだ。

問三 C で二文目の行動をした人を一つに決め切れない理由を、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

二 この文をほどいてみよう

拓海は陸に地図を渡した。しばらく眺めてから、北の道へ進んだ。

一文目には二人が出てきます。二文目では主語が省略されているため、述語ごとに誰が行動したかを確認めます。

問一 三つの動作「渡した」「眺めて」「進んだ」を丸で囲み、文中に主語が書かれている動作には、主語から線を引きなさい。

問二 省略された主語として文の形から考えられる人を、表の空欄へ書きなさい。

動作	考えられる主語
眺めて	()
進んだ	()

問三 次の手がかり①・②では、二文目の主語を誰と考えるのが自然ですか。それぞれ答えなさい。

①	陸は地図を受け取ると、橋の印を指でたどった。続いて、しばらく眺めてから北の道へ進んだ。
②	陸は地図をかばんへしまった。拓海は周囲を確認、しばらく眺めてから北の道へ進んだ。

問四 最初の主語や直前の主語が、いつでも次の文へ続くと決めてよいですか。二十字以上四十字以内で答えなさい。

三 文法で整理しよう

主語が書かれていないときも、勘だけで補うのではなく、文の中と前後にある手がかりを順に見ます。

用語	意味	この回の例
主語	述語が表す動作・状態の主体となるまとまり。	拓海は→渡した
述語	動作・状態・判断などを述べる文の中心。	渡した／眺めた／進んだ
省略	前後から補える言葉を、文の表面に書かないこと。	(誰かが)眺めた
行為者	実際にその動作をする人。	地図を眺めた人
視点	誰の行動や見え方に沿って文章が進むかという見方。	陸の行動を追う段落

省略された主語を見る順序

一	二	三
述語の意味から、誰がその動作をできるかを見る。	直前の主語、会話、持ち物、行動の順序を確かめる。	次の文も読み、同じ人物の行動が続くかを確かめる。

省略は誤りではない

主語を毎回書くと、かえってくどくなることがあります。読み手が迷う切り替わりだけを補うことが、分かりやすい文章につながります。

四 意味の違いを確かめよう

美咲は悠斗に鍵を渡した。すぐに扉を開けた。

問一 上の二文だけから分かることとして、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

ア	扉を開けたのは、鍵を渡した美咲に決まる。
イ	扉を開けたのは、鍵を受け取った悠斗に決まる。
ウ	美咲か悠斗のどちらが扉を開けたか決め切れない。
エ	美咲と悠斗は、鍵を使わずに扉を開けている。

問二 次の一文が間に入ると、扉を開けた人は誰だと考えられますか。根拠となる言葉も答えなさい。

間に入る文

悠斗は鍵を受け取ると、鍵穴の向きを確かめた。

意味の違いを確かめよう 続き

大地は時計を見た。「ここで待っていて」と奈緒に言った。走って駅へ向かった。

問三 「走って駅へ向かった」の省略された主語として、最も自然な人物を答え、その根拠を短く書きなさい。

彩は蓮に資料を渡した。すぐに読み始めた。

問四 蓮が資料を読み始めたという意味が一つに伝わるように、二文を書き換えなさい。

判断の手がかり

同じ人物が行動を続けることは多いものの、会話の相手や物を受け取った人へ主語が切り替わることもあります。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。主語が書かれていない文を、前後の行動から確かめます。

一 拓海と陸は、地域に残る古い町並みを調べるため、昔の水路が描かれた地図を持って歩いていた。学校へ戻ったら、水路の跡をたどる案内図を作る予定である。拓海は気づいたことをノートへ書き、陸は現在の道と古い地図を見比べる役を担当した。出発前、二人は地域資料館の人から、橋の跡には小さなくぼみや石垣が残っていると聞いていた。最初の広場では、拓海が方角を確かめ、陸が地図の線へ現在地の印を付けた。

二 二人が細い路地の分かれ道へ着くと、地図の折り目で道の線が見えにくくなっていた。拓海は陸に地図を渡した。陸は地図を広げ、橋の跡を示す小さな印を指でたどった。拓海はそばの道標を読み、二本の道のどちらにも古い地名が残っていることをノートへ書いた。

三 陸は「北の道なら、古い水路に沿って歩けそうだ」と言った。しばらく眺めてから、北の道へ進んだ。拓海はその後を追い、曲がり角の石垣をノートに記録した。少し先で陸が立ち止まると、拓海も追いつき、地図にある橋の向きと石垣の並びを一緒に確かめた。

四 二人は次の橋跡で立ち止まり、地図の線と足元のくぼみが重なることを確かめた。陸が地図を持ち、拓海が記録するという役割は、調査を終えるまで続いた。帰り道には、先に進んだ人、後から追った人、記録した人を案内図へどう書くかも相談した。

読むときの手がかり

下線部の直前だけでなく、その前の持ち物・発言と、直後の「その後を追い」まで見ましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第三段落で、地図を眺め、北の道へ進んだ人物を答えなさい。

問二 問一の判断の根拠となる表現を、下線部の前と後から一つずつ抜き出ささい。

前：

後：

問三 下線部だけでは主語を一つに決め切れないのに、本文では陸と読めるのはなぜですか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問四 本文の意味を変えず、主語の切り替わりが明確になるように、下線部を含む文を書き換えなさい。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

一文目には二人が出ます。図の右二欄を読み、二文目の二つの動作を誰がしたかが一つに伝わるように整えましょう。

書き換え方

主語が一文目から続く場面では、必要以上に繰り返さなくてもかまいません。別の人へ切り替わる場面では、その人の名前を補います。

元の文 真琴は奏にカメラを渡した。写真を確認してから、棚に戻した。

場面	写真を確認した人	カメラを戻した人
場面 A	真琴	真琴
場面 B	奏	奏

問一 A 場面 A が一つに伝わるように、二文を書き換えなさい。

問一 B 場面 B について、同じように二文を書き換えなさい。

場面を整理して、書き換えてみよう 続き

次は、呼びかけた人と、続く行動をした人が同じ場合・異なる場合を分けます。物を渡す場面とは別の手がかりを使いましょう。

元の文 沙羅は「先に広場を見よう」と直人に言った。走って橋を渡り、ベンチの前で立ち止まった。

場面	橋を渡った人	立ち止まった人
場面 A	沙羅	沙羅
場面 B	直人	直人

問二 A 場面 A が一つに伝わるように、元の文を書き換えなさい。

問二 B 場面 B について、同じように元の文を書き換えなさい。

書き換えたあとの確認

主語を補う位置は、人物が切り替わる場所になっていますか。全ての文へ同じ名前を繰り返していませんか。

七 自分のことばで説明しよう

問一 省略された主語を考えると、どのような手がかりを使えばよいですか。三つ以上挙げ、四十～六十字で説明しなさい。

問二 主語を省略する利点と、読み手が迷う場合の直し方を、四十～六十字で説明しなさい。

八 この回のまとめ

一	二	三
省略された主語は、直前の名詞だけで機械的に決めない。	述語・会話・持ち物・次の行動を合わせて行為者を追う。	人物が切り替わる所だけ主語を補うと、明確でくどくない。

最後に

書かれていない言葉を丁寧に補うことは、本文にない出来事を足すこととは違います。根拠のある範囲で主語を追いましょう。

解答・解説

答え合わせの仕方

省略された主語は、最初に浮かんだ人物で決めず、述語・前後の行動・会話・持ち物を照合します。書き換えでは、必要な切り替わりだけを明示しましょう。

一 まず比べてみよう

問一

答え A は拓海、B は陸。

見るところ A・B とも二文目に主語が書かれているため、眺めた人と進んだ人を一つに決められます。

問二

答え ウ

見るところ 一文目には拓海と陸が現れ、二文目の主語は省略されています。どちらの行動としても文の形を作れます。

答案で注意したい点 ア・イは一人へ決めつけ、エは元の文と反対の出来事を加えています。

問三

答え 一文目に拓海と陸の二人が出ており、二文目には眺めた人と進んだ人が書かれていないため。（四十二字）

見るところ 二人の候補がいることと、二文目で主語が省略されていることを示します。

別解例 地図を渡した人と受け取った人があるのに、その後の二つの動作の主語が省略されているから。（四十三字）

ほかの答え方・考え方 「同じ主語が続く読み／受け取った人へ切り替わる読み」の二つを示してもよいでしょう。

☆自己採点の観点 主語の候補が二人いることと、省略を結びつけているか。

二 この文をほどいてみよう 解答

問一

答え 動作は「渡した」「眺めて」「進んだ」。主語が文中に書かれているのは「拓海は→渡した」。

見るところ 二文目の二つの動作には、誰が行ったかを直接示す主語がありません。

問二

答え 「眺めて」も「進んだ」も、拓海・陸の両方が考えられる。

見るところ 最初の主語が続く読みでは拓海、地図を受け取った人へ切り替わる読みでは陸になります。

☆自己採点の観点 直前に近い名詞だけで陸へ、最初の主語だけで拓海へ決めていないか。

問三

答え ①陸／②拓海

見るところ ①では陸が地図を受け取り、印をたどる行動が続きます。②では拓海が周囲を確かめたあと、その視点で動作が続きます。

問四

答え いつでも続くとは決められず、述語や会話、前後の行動から主語の切り替わりを確かめる。（四十一字）

見るところ 主語の継続は有力な手がかりですが、絶対の規則ではありません。

別解例 最初や直前の主語だけでは決めず、誰がその動作をしたかを文脈で判断する必要がある。（四十字）

☆自己採点の観点 機械的に決められないことと、見る手がかりが入っているか。

三 文法で整理しよう 確認

省略された主語を補うとき

書かれていない主語は、本文の根拠から補います。現実にはありそうだからというだけで人物を選ばず、述語とのつながり、会話の話者、物を持つ人、直後の行動を確かめます。

四 意味の違いを確かめよう 解答

問一

答え ウ

見るところ 美咲が鍵を渡したあと、同じ主語が続いて扉を開けたとも、鍵を受け取った悠斗へ切り替わったとも読めます。

答案で注意したい点 ア・イは一つの読みを必然とし、エは鍵を使わなかったという情報を加えています。

問二

答え 悠斗。「悠斗は鍵を受け取ると、鍵穴の向きを確かめた」が根拠。

見るところ 悠斗の行動が直前に具体的に書かれ、そのまま扉を開ける動作へつながります。

☆自己採点の観点 人物名だけでなく、行動の連続を示す根拠を挙げているか。

四 意味の違いを確かめよう 解答 続き

問三

答え 大地。

見るところ 「時計を見た」「奈緒に『待っていて』と言った」と大地の行動が続き、待つよう頼んだ側が駅へ向かう流れになっています。

｜ほかの答え方・考え方 「奈緒は待つように言われた」と、会話の内容から反対側の役割を確かめてもよいでしょう。

☆自己採点の観点 発言者と、待つよう頼まれた人を区別できているか。

問四

答え 彩は蓮に資料を渡した。蓮はすぐに読み始めた。

見るところ 二文目に「蓮は」を補い、資料を受け取った人へ主語が切り替わることを明示します。

別解例 彩が資料を渡すと、蓮はすぐに読み始めた。

｜ほかの答え方・考え方 二文を一文へまとめてもかまいません。渡した人と読み始めた人の両方を残します。

☆自己採点の観点 資料を渡した人が彩、読み始めた人が蓮だと一つに伝わるか。

直しすぎない

「彩は蓮に資料を渡した。蓮は資料を受け取った。蓮は資料を読み始めた」のように、分かっている情報まで全て繰り返す必要はありません。

五 文章の中で読もう 解答

問一

答え 陸

見るところ 直前で陸が地図を持って発言し、直後には「拓海はその後を追い」とあります。先に北の道へ進んだのは陸です。

問二

答え 前：「陸は『北の道なら……』と言った」／後：「拓海はその後を追い」

見るところ 発言者の行動が続くことと、「その後」が先に進んだ人物の存在を示すことを合わせます。

☆自己採点の観点 下線部の前後から、一つずつ直接の手がかりを抜き出しているか。

問三

答え 陸が地図を持って北の道を提案し、直後に拓海が「その後を追い」と書かれているため。（四十字）

見るところ 下線部だけでは主語がありませんが、前の発言と後の追従を合わせると陸に定まります。

別解例 直前まで陸の行動が続き、拓海は後から追ったとあるので、先に北へ進んだのは陸だから。（四十一字）

｜ **ほかの答え方・考え方** 「地図を持つ役が陸だった」という第四段落の情報を補助的に使ってもよいでしょう。

☆ **自己採点の観点** 前後の異なる根拠を用いて、陸と判断しているか。

問四

答え 陸はしばらく地図を眺めてから、北の道へ進んだ。

見るところ 「陸は」を一度補えば、同じ人物が「眺める」「進む」の二つの動作をしたことが伝わります。

別解例 地図をしばらく眺めた陸は、北の道へ進んだ。

｜ **ほかの答え方・考え方** 主語を一度だけ補うほか、二つの動作を修飾関係にまとめてもよいでしょう。

☆ **自己採点の観点** 陸が二つの動作をしたことが、くどくなく明確になっているか。

六 場面を整理して、書き換えてみよう 解答

問一 A

答え 真琴は奏にカメラを渡した。写真を確認してから、真琴はカメラを棚に戻した。

見るところ 二文目の動作を真琴が行うため、曖昧さを避けて「真琴は」を補いました。

別解例 真琴は写真を確認したあと、奏に渡したカメラを棚へ戻した。

｜ **ほかの答え方・考え方** 一文へまとめる場合も、カメラを一時的に奏へ渡した事実を消さないようにします。

☆ **自己採点の観点** 確認した人と戻した人が、どちらも真琴だと分かるか。

問一 B

答え 真琴は奏にカメラを渡した。奏は写真を確認してから、カメラを棚に戻した。

見るところ 人物が真琴から奏へ切り替わる二文目の冒頭に「奏は」を補いました。

別解例 真琴からカメラを受け取った奏は、写真を確認して棚へ戻した。

｜ **ほかの答え方・考え方** 「受け取った奏は」と書けば、物の移動と主語の切り替わりを一度に示せます。

☆ **自己採点の観点** 渡した人が真琴、その後の二動作をした人が奏だと伝わるか。

六 場面を整理して、書き換えてみよう 解答 続き

問二 A

答え 沙羅は直人に声をかけると、走って橋を渡り、ベンチの前で立ち止まった。

見るところ 主語の沙羅が三つの動作を続けるため、一文にまとめても行為者が保たれます。

別解例 沙羅は「先に広場を見よう」と直人に言った。それから橋を走って渡り、ベンチの前で立ち止まった。

｜ **ほかの答え方・考え方** 二文にする場合も、同じ主語が自然に続くなら、二文目の「沙羅は」は省略できます。

☆ **自己採点の観点** 発言、橋を渡る、立ち止まるの全てを沙羅がしたと伝わるか。

問二 B

答え 沙羅が直人に声をかけると、直人は走って橋を渡り、ベンチの前で立ち止まった。

見るところ 続く行動の主語が直人へ切り替わる位置で、「直人は」を明示します。

別解例 沙羅は直人に「先に広場を見よう」と言った。直人は橋を走って渡り、ベンチの前で待った。

｜ **ほかの答え方・考え方** 立ち止まった場所は保ちつつ、「直人が先に向かった」と補っても場面が明確になります。

☆ **自己採点の観点** 声をかけた人が沙羅、続く二動作をした人が直人だと分かるか。

七 自分のことばで説明しよう 解答

問一

答え 述語の意味、直前の主語、会話の話者、物を持つ人、行動の順序や次の文を手がかりにする。（四十二字）

見るところ 三つ以上の手がかりを挙げ、それらを合わせて判断することを示しています。

別解例 誰がその動作をできるかを考え、前後の主語、発言、持ち物、続く行動を照らして判断する。（四十二字）

｜ **ほかの答え方・考え方** 「段落の視点」や「その後・それから等の表現」を挙げてもよいでしょう。

☆ **自己採点の観点** 手がかりを三つ以上挙げ、文脈と結びつけているか。

問二

答え 分かる主語を省くと文がくどくならず、人物が切り替わり迷う所では名前を一度補えばよい。（四十二字）

見るところ 省略の利点と、曖昧さを直す方法の両方に答えています。

別解例 同じ主語の反復を避けると文は自然になるが、行為者が揺れる場合は切り替わる所に主語を置く。（四十四字）

｜ **ほかの答え方・考え方** 「全ての文で主語を繰り返さない」と、必要最小限の補い方を強調してもよいでしょう。

☆ **自己採点の観点** 省略のよさと、読み手が迷うときの直し方が入っているか。

学習を終えて

□	□	□
述語ごとに行為者を確かめられた。	前後の根拠から省略された主語を補えた。	主語の切り替わりだけを明示できた。

総合問題

古い案内板の言葉をたどる

四回の学びを、一つの記録の中で使う

1 修飾先を 文脈で選ぶ	2 助詞と述語で 役割を見る	3 話題・主語・省略を 文章で追う	4 場面メモから 明確な文を書く
---------------------------	-----------------------------	--------------------------------	-------------------------------

取り組む前に

どの回の問題かを当てる必要はありません。まず述語とその周りの言葉を見て、一文だけで決まらないときは段落を越えて根拠を探します。最後の書き換えでは、場面の情報を落とさず、誰の動作かが一つに伝わるようにします。

学習のめやす	問題数と形式	使う学び
問題 四十五～六十分 答え合わせ 二十分前後	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	修飾／に・と／は・が 省略された主語

名前

取り組んだ日

文章を読もう

読む時の手掛かり

下線部だけで一つに決めず、誰が何を持っているか、いつ作業したか、誰と相談したかを段落どうしでつないでください。

(一) 町の資料保存会は、公民館の倉庫に残されていた木製の案内板を調べることにした。案内板は、三十年ほど前まで旧街道の分かれ道に立ち、「薬師堂」「共同井戸」などへの道を示していたという。調査を手伝う紗季と悠真は、土曜日に表面と裏面を撮影し、文字の位置を記録した。表面は紗季が撮り、裏面は悠真が写した。

(二) その日、悠真は紗季に古い地図を渡した。①机に広げ、案内板が立っていた場所に赤い印を付けた。ペンを持っていたのは紗季で、悠真は隣から昔の番地を読み上げた。二人は地図と現在の通りを見比べ、案内板が道の東側に向けられていたらしいと考えた。

(三) 日曜日、二人は写真を拡大して文字を読み取った。調査記録には、②「紗季は昨日撮った案内板の写真を確かめた」とある。「昨日」が「撮った」につながるか「確かめた」につながるかで、作業の日は異なって見える。しかし前の段落と「日曜日」という手掛かりを合わせると、土曜日に撮り、日曜日に確かめたという読みが自然である。

(四) 読みにくい一字について、二人は資料館の学芸員に相談した。学芸員は同じ時期の地名帳を示したが、復元する文言を決めたわけではない。二人は資料保存会の記録係と相談し、候補を二つに絞った。同年代の地図と照合した結果、「薬師堂」の三字は、悠真が読み取った。その読みは地図上の表記とも一致した。井戸までの距離は、写真だけでは分からなかった。

(五) 最後に、③「紗季は悠真に復元案を伝えた。写真と地図を並べ、案内板についての説明文を直した」と記録した。完成した記録には、確かめられたことと推測したことが分けて書かれた。保存会はその記録をもとに新しい解説板を作る予定だが、古い案内板そのものは資料室で保管することになった。

一 言葉のつながりと助詞

問一 下線部②の二つの動作を丸で囲み、「昨日」から、つながる可能性がある動作へそれぞれ矢印を引きなさい。

問二 本文では、「昨日」はどちらの動作につながると読むのが自然ですか。曜日を使い、三十字以上五十字以内で説明しなさい。

問三 第四段落の二つの相談について、表の空欄を埋めなさい。

表現	人の関わり	本文に書かれた結果
学芸員に相談した	相談を（ ）相手	（ ）を示した
記録係と相談した	相談に（ ）相手	候補を（ ）

問四 第四段落の内容として、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

ア	学芸員が復元する文言を一人で決め、二人へ伝えた。
イ	記録係が候補を一つに決め、二人はそのまま採用した。
ウ	「と」を使った相談なので、全員の意見は初めから一致した。
エ	二人は助言と相談を経て候補を絞り、地図とも照合した。

二 話題と主語を見分ける

問一 第一段落の「表面は紗季が撮り、裏面は悠真が写した」について、表の空欄を埋めなさい。

部分	話題	動作の主語	述語
前半	()	()	撮った
後半	()	()	写した

問二 問一の文では、何と何が対比され、撮影した人はどのように分けて示されていますか。短く書きなさい。

問三 第四段落の「『薬師堂』の三字は、悠真が読み取った」で、話題と「読み取った」の主語をそれぞれ抜き出さない。

問四 問三の一文から、悠真が案内板の文字をすべて読み取ったと言えますか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問五 問三の文で、話題と主語が異なる理由を、「は」「が」「述語」の三語を使い、四十～六十字で説明しなさい。

三 省略された主語を文脈で追う

問一 下線部①で、地図を机に広げ、赤い印を付けた人物は誰だと読むのが自然ですか。

問二 問一の判断の根拠となる表現を、下線部①の前と後から一つずつ抜き出さないさい。

問三 下線部①だけでは、動作の主語を一つに決め切れないのはなぜですか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問四 省略された主語を考える順序として、最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

ア	最初の文の主語が、段落の最後まで続くと考える。
イ	省略された動作の直前にある人物を、主語と考える。
ウ	主語が書かれていない文は、誰の動作か判断しない。
エ	述語、持ち物、会話、出来事の順序を合わせて考える。

問五 下線部③について、文だけで分かる人の役割と、まだ一つに決められない人の役割を表に整理しなさい。

復元案を伝えた人／相手	() ／ ()
写真と地図を並べた人	()
説明文を直した人	()

四 文章全体で確かめる

問一 文章全体の内容を最も正確にまとめた文を、ア～エから一つ選びなさい。

ア	学芸員が案内板の全文を復元し、もとの分かれ道へ戻した。
イ	保存会が調査を一人で進め、二人は写真だけを撮影した。
ウ	記録係が案内板を解説し、古い案内板を新しい板へ作り替えた。
エ	二人は写真・地図・助言を照合し、確かさを分けて記録した。

問二 次の内容が本文に書かれていれば○、書かれていなければ×を書きなさい。

(一)	学芸員は、同じ時期の地名帳を示した。	()
(二)	相談した全員の意見は、初めから一致していた。	()
(三)	古い案内板は、新しい解説板として屋外へ戻される。	()
(四)	保存会は、調査記録をもとに解説板を作る予定である。	()

問三 学芸員と記録係は、調査へどのように関わりましたか。本文に書かれた範囲で、四十～六十字で説明しなさい。

問四 古い案内板と新しい解説板が、その後どのように扱われるか、三十字以上五十字以内で説明しなさい。

五 場面を整理して、書き換える

下線部③では、最初の文の主語と相手は分かりますが、次の文の二つの動作を誰がしたのかは書かれていません。次の場面メモを使い、人物の役割が一つに伝わる段落へ直します。

元の文 紗季は悠真に復元案を伝えた。写真と地図を並べ、案内板についての説明文を直した。

主語、助詞、語順、述語、文の分け方を変えてもかまいません。二～三文で書きます。

動作	人物	記号の読み方
復元案を伝える	紗季 → 悠真	紗季から悠真へ伝える
写真と地図を並べる	悠真	悠真が一人で行う
説明文を直す	紗季 ↔ 悠真	紗季と悠真が一緒に行う

問一 場面メモの三つの情報を落とさず、元の文を書き換えなさい。

問二 元の文のどこが曖昧で、書き換えでは何を補いましたか。三十字以上五十字以内で説明しなさい。

問三 この記録を読むとき、四回の学びをどのような順で使いましたか。「述語」「文脈」の二語を使い、四十～六十字で説明しなさい。

総合問題 解答・解説

一 言葉のつながりと助詞

問一

答え 動作は「撮った」「確かめた」。文の形だけを見れば、「昨日」はどちらへつながる読みも考えられる。

見るところ 「昨日」が一番近い動作へつながりやすいものの、主節の「確かめた」を詳しくする読みも、文脈なしには排除できません。

問二

答え 「昨日」は「撮った」につながる。土曜日に撮影し、日曜日に確かめたと前後から分かるから。（四十三字）

見るところ 第二段落の「土曜日」と、第三段落冒頭の「日曜日」を組み合わせます。

別解例 「昨日」は「撮った」を詳しくする。撮影は土曜日、確認は日曜日に行ったと読めるから。（四十一字）

☆自己採点の観点 ①「撮った」を選んだ、②土曜日の撮影と日曜日の確認を区別した、の二点があればよい。

問三

答え 学芸員は、相談を持ちかける相手で、同じ時期の地名帳を示した。記録係は、相談に加わる相手で、二人と候補を二つに絞った。

見るところ 「に／と」を述語「相談した」と合わせ、その後に本文が明記した行動まで確かめます。

問四

答え エ

見るところ 学芸員は文言を決めておらず、記録係と相談しただけで意見の一致までは分かりません。候補を絞ったあと、地図とも照合しています。

答案で注意したい点 「に」を見て学芸員が決定した、「と」を見て全員が同意した、と情報を足さないようにします。

二 話題と主語を見分ける 解答

問一

答え 前半：話題「表面」、主語「紗季」。後半：話題「裏面」、主語「悠真」。

見るところ 「は」の付いたものが話題として前に置かれ、「が」の付いた人物が、それぞれの述語の動作主です。

問二

答え 表面と裏面が対比され、表面を紗季、裏面を悠真が撮影したと分けて示されている。

見るところ 対比される物と、各動作の主語の両方を答えます。

問三

答え 話題：「薬師堂」の三字／「読み取った」の主語：悠真

見るところ 話題は文全体の入口、主語は述語「読み取った」の動作主として見ます。

問四

答え 三字について悠真が読み取ったことは分かるが、ほかの文字を誰が読んだかは書かれていないから。（四十五字）

見るところ 「『薬師堂』の三字」という、文が述べる範囲を越えないようにします。

☆自己採点の観点 ①すべてとは言えない、②文は三字についてだけ述べている、の二点があればよい。

問五

答え 「は」の付いた三字が話題となり、「が」の付いた悠真が、述語「読み取った」の動作主になるから。（四十六字）

見るところ 「は＝主語」と固定せず、どの述語に対する主語かを確かめます。

別解例 三字は「は」によって話題にされ、述語「読み取った」に対する主語は「が」の付いた悠真だから。（四十五字）

☆自己採点の観点 ①「は」と話題、②「が」と主語、③述語「読み取った」との関係、の三点を含める。

三 省略された主語を文脈で追う 解答

問一

答え 紗季

見るところ 地図を受け取った人と、赤い印を付けるためのペンを持っていた人が紗季です。

問二

答え 前：「悠真は紗季に古い地図を渡した」／後：「ペンを持っていたのは紗季」

見るところ 下線部の直前だけでなく、直後の持ち物の情報も根拠になります。

問三

答え 主語が書かれておらず、直前の文には悠真と紗季の二人が登場しているため、一文だけでは選べないから。（四十八字）

見るところ 省略されていることと、候補となる人物が複数いることを説明します。

別解例 二つの動作の主語が省略され、前の文の悠真と紗季のどちらが行ったか、下線部だけでは決まらないから。（四十八字）

☆自己採点の観点 ①主語が省略、②悠真・紗季の両方が候補、の二点があればよい。

問四

答え エ

見るところ 最初の主語や近くの名詞を機械的に選ばず、述語と人物の行動を複数の手掛かりで照合します。

問五

答え 伝えた人／相手：紗季／悠真。並べた人：一つに決められない。直した人：一つに決められない。

見るところ 第一文は主語と「に」で相手が明示されています。第二文では二つの述語の主語がともに省略されています。

四 文章全体で確かめる 解答

問一

答え エ

見るところ 二人は写真、地図、地名帳、相談を手掛かりにしています。また、完成した記録は、確かめられたことと推測を分けています。

問二

答え (一) ○ (二) × (三) × (四) ○

見るところ (二)は意見の一致が書かれていません。(三)は、古い案内板を資料室で保管し、新しい解説板を作る予定です。

問三

答え 学芸員は地名帳を示して読みを助け、記録係は二人との相談に加わり、候補を二つに絞った。(四十二字)

見るところ 二人の役割を、「相談した」という一語だけで同じにせず、その後の行動で分けます。

別解例 学芸員は古い地名の資料を示し、記録係は二人とともに相談して、復元する候補を二つまで絞った。(四十五字)

★自己採点の観点 ①学芸員は地名帳を示した、②記録係は相談に加わって候補を絞った、の二点を含める。

問四

答え 古い案内板は資料室で保管し、調査記録をもとに新しい解説板を作る予定である。(三十七字)

見るところ 古い案内板そのものと、これから作る解説板を混同しないようにします。

★自己採点の観点 ①古い案内板は保管、②新しい解説板は記録をもとに制作予定、の二点があればよい。

五 場面を整理して、書き換える 解答

問一

答え 紗季は悠真に復元案を伝えた。写真と地図は悠真が並べ、説明文は二人で直した。

見るところ 伝える向き、資料を並べた人、共同で説明文を直したことの三つを、主語や助詞で明示します。

別解例 紗季が悠真へ復元案を伝えた。悠真は写真と地図を並べたあと、紗季と一緒に案内板の説明文を直した。

ほかの答え方・考え方 「紗季と悠真は説明文を直した」と二人を主語にしてもよい。「二人で」を使う場合も、直した人が二人だと明確なら成り立ちます。

☆自己採点の観点 ①紗季→悠真の伝達、②悠真が資料を並べる、③二人で説明文を直す、④元になかった出来事を足さない、の四点を確かめる。

問二

答え 元の文では後の二動作の主語が省略されていたため、行動ごとに主語や共同者を補った。(四十字)

見るところ 曖昧だった箇所と、書き換えで加えた情報を一つずつ述べます。

別解例 写真を並べた人と説明文を直した人が不明だったので、悠真という主語と、二人で行ったことを補った。(四十七字)

☆自己採点の観点 ①二つの動作の主語が曖昧、②主語・共同者を補った、の二点があればよい。

問三

答え まず述語と結びつく言葉を確認、文だけで決まらない主語や人の関わりは、前後の文脈と照らして選んだ。(四十九字)

見るところ 文の内側を見る段階と、文章全体へ戻る段階を順に書きます。

別解例 述語を中心に助詞、話題、主語を整理し、それだけで決められない部分は文脈の手掛かりから判断した。(四十七字)

ほかの答え方・考え方 修飾先を先に挙げて、助詞と人物の役割を先に挙げてかまいません。「一文を調べたあと、文章へ戻った」という順序が伝わればよい。

☆自己採点の観点 ①「述語」、②一文のつながりを確認、③文だけで決まらないところを「文脈」で判断、の三点を含める。

『文法で意味を読む』

第一冊 文の骨組みとつながりを読む

書誌

教材名	『文法で意味を読む』第一冊 文の骨組みとつながりを読む
版	第一冊完成版
発行日	2026 年 8 月 12 日
制作・発行	和会塾（なごらいじゅく）
ウェブサイト	https://kokugo-senka.top/

利用について

本教材は、個人の学習、家庭学習、和会塾の指導で利用するために制作したものです。教材の全部または一部を、許可なく転載・再配布・販売することはお控えください。

改訂について

実際の学習や指導で得られた気づきをもとに、設問・解説・紙面を改訂することがあります。内容についての連絡は、和会塾ウェブサイトのお問い合わせフォームからお寄せください。